

月報 シオン山

2024年10月6日発行 (No409)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

.....

【月間聖句】

祝福されよ、主に信頼する人は。主がその人のよりどころ
となられる。

エレミヤ書 17章7節

奉仕の意味（奉仕の心）

山下 保

パウロはロマ書12章の冒頭、信仰生活の基本である神との縦の関係となる「なすべき礼拝」を語り、それを踏まえ、キリストの恵みによる賜物7つを挙げました。（預言、奉仕、教え、勧め、施し、指導、慈善）そこに「奉仕」があります。

教会の働きを表す最も基本的な言葉である「奉仕」について、聖書の原文では「ディアコニア」と言い、もとは身分の低い奴隷が食卓の傍らに立ち、給仕することを意味した、非聖書的な言葉でした。

しかし、「異邦人の間では、王が民を支配し、民の上に権力を振るう者が守護者と呼ばれている。しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたがたの中でいちばん偉い人は一番若い者ようになり、上に立つ者は仕える者ようになりなさい。」(ルカ 11:25-26) との言葉などにより、教会のなすべき奉仕の基本と位置付けられるようになりました。

「奉仕」とは当時の教会の、毎日の働きでした。例えば他の教会からの訪問者、何らかの理由で教会に長く居候する人たち、新しく教会と関わりを持った人、病人や生活上の問題を抱えた人のお世話などであったと言われます。当初は会堂はなかったので、これらの活動を行う場所がいろいろと提供されました。この奉仕を与えられた兄弟姉妹はやがて共に礼拝を捧げる信仰の仲間とされていったのです。

この奉仕の働きを可能にさせる根拠は「恵み」による「賜物」と言われます。恵み、賜物、それぞれ原文ではカリス、カリスマ。つまり、カリスからカリスマが生まれる。奉仕とは、恵みの賜物の意味があります。

(日本基督教団本所緑星教会 2022.8 説教題「奉仕 の業」参照)

.....

私たちにとって奉仕することは、本来とても楽しいことです。なぜなら、私たちは奉仕することを通して、自らと対象者(物)との間に、また奉仕の業の内に神様、御子イエスキリスト、聖霊の働きを見出すことができるからです。私たちが自分自身を神様の御霊が働く器(通り良き管)なる存在として認める時、エゴの心からではないほんとうの自分自身とより一致することが出来るからです。

もしあなたが足首を骨折して路上に横たわっている人を見かけたら、もちろん道の端の安全な所に移動するよう助けるのを手伝うと思います。

しかしそれは自分が他者への奉仕を重視していることを他の誰かに証明する必要があるからではなく、他者を助けることとは自分自身を助けることにつながっているということ、「他者とは自己のことである」ことを、頭の中での理解ではなく、無意識下において(本質的に)理解しているからです。

私たちはみんな、実は一つなのです。

自分自身を知ろうとするとき、そして、私たち（あなた自身）がイエス・キリストにつながっている時、あなたはすべてであり、あなたはみんなであることを発見するのです。

それが本当の姿であり、分離や階層（身分）それらは全て私たちが様々な方法で自分自身を知る機会を得るために、神様ご自身が私たち一人一人に与えた幻想なのです。

イエス様の仰っておられる無償の愛、無条件の愛に包まれるとき、あなたはすべてであり、あなたはみんなであることを発見するのです。（仏教ではこれを自他不二、身土不二と言い表わします。）

自分自身を知ろうとするとき、私たちは今生に生まれてきた自らに託された使命を果たしているのです。

地上の見え方（見えるものしか信じない）ではなく、（見えないものに目を注ぐ）天上では、自分自身でもある他者、イエス・キリストという大きな幹につながる枝葉、全体としては一つのものとして受け止め本当に多くの人を助けたいと思うようになります。

私たち一人一人には奉仕する方法が沢山あり、祈り求めるとき、キリストはそれぞれに自分の才能や独自の能力が役立つための様々な方法を教えてくれるのです。

もしあなたが、何かを得意としているならば、その得意なことを使って他の人を助けてください。そして、互いに助け合った結果、その人とより親密になることができます。言い換えれば私たちが集まることで、私たち全員が源である神の似姿として生まれてきた、という真実に近づいていくのです。

私たちは二つの別々の個体としてではなく、神様のご意志を現す一つの存在として活動することになるのです。

神様に繋がる一人一人として「皆が一つである」という認識を持ちながら、同時に「個性的である」ということを経験することができるのです。